

# 幾春別川総合開発事業に関する情報発信の強化 に向けて

## —基本計画変更を経た事業のこれからの広報について—

札幌開発建設部 幾春別川ダム建設事業所 調査設計班 ○ 後藤 治樹  
西本 学  
三本木 公士

幾春別川ダム建設事業所では幾春別川総合事業の早期効果発現を目指し、新桂沢ダム及び三笠ぼんべつダムの完成に向けて事業を進めている。当建設事業所では、ダム建設の推進と合わせて、事業の内容などについて、広く住民の方々に理解を深めていただくための情報発信の取組を進めている。本稿ではこの取り組みを紹介するとともに、今後の効果的な情報発信について考察するものである。

キーワード：広報、情報発信、透明性確保

### 1. はじめに

幾春別川は、国内第2位の流域面積を有する一級河川・石狩川の一次支川であり、幹川流路延長59km、流域面積343km<sup>2</sup>を有しており、流域には三笠市及び岩見沢市が所在する。

幾春別川総合開発事業は、幾春別川に昭和32年度に建設された桂沢ダムを嵩上げする「新桂沢ダム」と、幾春別川の支流である奔別川に新設する「三笠ぼんべつダム」の2つのダムを建設する事業である。

幾春別川をはじめとした石狩川下流地域において、年超過確率1/100の規模の洪水（毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/100(1%)）を想定した場合に氾濫のおそれがある区域には三笠市をはじめとして札幌市、岩見沢市など9市3町1村が含まれ、約250万人が暮らしている。本事業は、これらの地域に対して洪水による災害の発生の防止または低減を目標とする洪水調節のほか、流水の正常な機能の維持、水道用水の供給、工業用水の供給、発電を目的としており、令和3年8月までに4回の基本計画変更により、総事業費や工期等の変更を行い、事業効果の早期発現を目指して事業を進めている

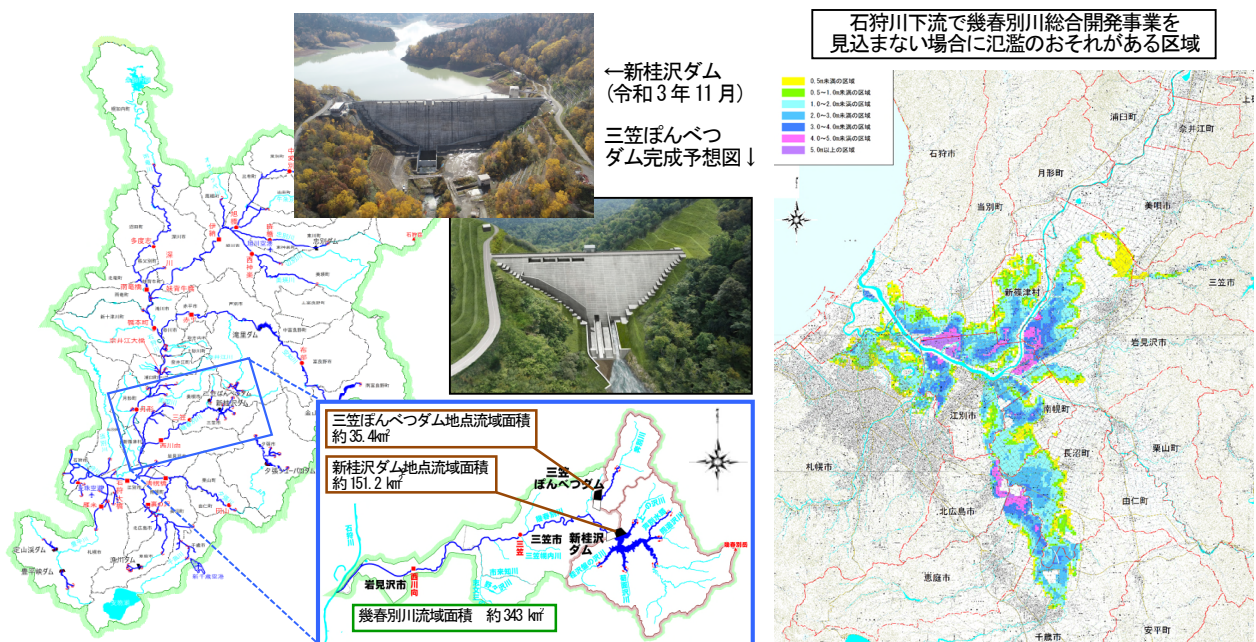


図-1 幾春別川総合開発事業の概要

ところである。

本事業を進めている幾春別川ダム建設事業所では、以前よりwebサイトでの情報発信や、地域イベント等との連携による現場見学の受け入れなどを通して本事業の広報に取り組んできたが、事業が長期化する中、情報発信の内容を検証することとした。

## 2. 事業所のこれまでの広報と課題

### (1) これまでの取組事例 ～ダムと観光～

事業所では、ダムをインフラ観光資源としてとらえた事業の広報として、地域との連携やインフラツーリズムの取組にあわせたダム建設現場の見学の受け入れ等を実施してきた。ここではこの取り組みに関して簡単に紹介する。なおいずれの取組も、令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、開催規模の縮小や中止などの影響を受けている。

#### a) 三笠市との連携（地域行事、ジオツアー）

事業所および2つのダムが位置する三笠市では、毎年「みかさ梅まつり」および「みかさ桂沢紅葉まつり」が開催されている。事業所では、これらの地域行事にあわせて新桂沢ダムの建設現場への見学ツアー等を実施してきた。

また三笠市は「三笠ジオパーク」に認定されており、三笠のさまざまな地域資源「地域のお宝」を紹介し、三笠の魅力を伝える「ジオツアー」を開催している。事業所では新桂沢ダムをテーマとしたジオツアーを年2回程度受け入れており、原石山やダム建設現場、ダム堤体内部などを見学できることから好評を得ている。

#### b) インフラツーリズムに関する取組

北海道開発局では、道内各地の直轄工場の現場や公共施設に募集型バスツアーや学校等の団体を受け入れる取り組みを精力的に進めており、新桂沢ダム建設工場の現場においても「公共施設見学ツアー」等としてその受け入れを実施している。

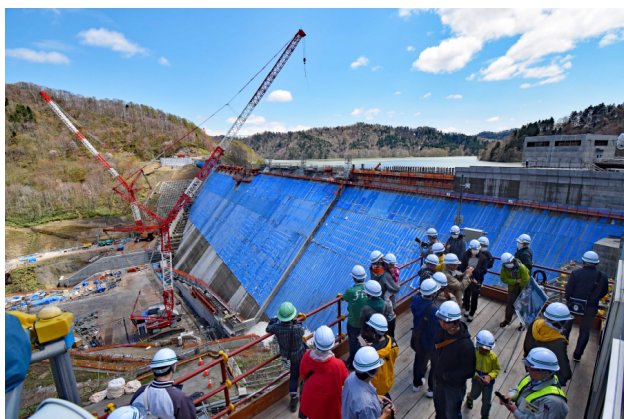


図-2 建設工事中の見学の様子(令和元年度)

GOTO Haruki, NISHIMOTO Manabu, SAMBONGI Hitoshi

### (2) 観光と結びつけた広報と評価

このように事業所では、ダムを観光資源として地域振興に寄与させるためという観点から広報を行ってきた<sup>2)</sup>。

これらの取組の中で、参加者からは『今だけしか見られない場所を見学(新旧2つの堤体を同時に見る)できてよかった』などと好評をいただいている。ダムの魅力を知っていただき、地域振興に寄与するという目的に対しては一定の効果が得られていると考えており、今後もこうした取り組みは継続していきたいと考えている。

### (3) 現状の情報発信に関する課題

一方で、2つのダムの建設という非常に大規模な事業を進めていく中で、住民の方々に求められている情報発信とはどういったものか再検討しさらなる充実を図るため、現状の取組について検証を行い、課題を以下の4点に整理した。

#### ① 事業本来の目的・効果の理解度

事業について興味・関心を持ってもらうため、あるいは地域としての魅力を向上させるため、観光資源としてのダムの広報に力を入れてきた中で、ダム事業本来の目的や事業効果の広報が少々疎かになっていたのではないかと考えた。

#### ② 幅広い方々への発信

これまでの取組では、イベントに参加していただいた方など、特定の方には届かない情報発信であったと考えられる。より多くの皆様に事業について知っていただく機会を積極的に作っていくべきではないかと考えた。

#### ③ 一般の方からのご意見・ご質問と反映

これまでの広報は、情報を“出すだけ”“現場を見るだけ”になってしまい、一般の方からの意見・質問を広く受け入れるためのツールも十分ではなかった。情報を閲覧する方や参加される方の“知りたい”“見たい”ニーズの把握や、それを受けた情報発信の取組へのフィードバックが十分に行えていなかったと考えた。

#### ④ 情報の体系的な整理・わかりやすさ

必要な情報を並べられていたとしても、それが受け取る側にわかりやすくなければ効果的な情報発信とは言えない。例えば、事業所の従来のwebサイトは、情報がわかりやすい構成・体系で掲載できていたとはいえ、閲覧する方への配慮が十分でなかったと考えた。

### (4) 令和3年度の対応の方向性

以上の4つの課題を踏まえて、事業に対する理解をより深めていただくための情報発信を目指すために、令和3年度は表-1に示すような対応をとることとした。以降では、この対策のうち「事業所webサイトのリニューアル」「見学会・意見交換会の開催」の2つの取組について詳しく紹介する。

表-1 事業所の情報発信に関する  
現状の課題と令和3年度の対応の方向性

課題	令和3年度の対応の方向性
(1) 事業本来の目的・効果の理解度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・webサイト上の情報の充実・整理</li> <li>・現場見学等において、事業の目的・効果を理解いただけるような説明の強化</li> </ul>
(2) 幅広い方々への発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・webサイトに新設する「バーチャル現場見学」で見学等に参加せずともダム建設現場を体感可能に</li> <li>・従来の見学受け入れと別に「見学会・意見交換会」を事業所主体で実施</li> </ul>
(3) 一般の方からのご意見・ご質問と反映	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お問い合わせ用メールアドレスの開設</li> <li>・「見学会・意見交換会」における参加者との直接の意見交換の実施</li> </ul>
(4) 情報の体系的な整理・わかりやすさ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・webサイトの体系を整理</li> </ul>

### 3. 事業所webサイトのリニューアル

事業所では、前章で述べた課題解決の方向性に沿って、大きく「バーチャル現場見学」「資料の充実と体系の整理」「イベント開催情報の発信」「お問い合わせ先メールアドレスの開設」の4つのポイントでwebサイトの見直しを行った。本章ではその内容と、リニューアルによるwebサイトへのアクセス数の変化について述べる。

#### (1) 「バーチャル現場見学」の公開

現在の新桂沢ダムは建設工事中であり、一般の方はイベント等に参加していただいた方を除いて立ち入りができない状況となっており、特に近年では新型コロナウ

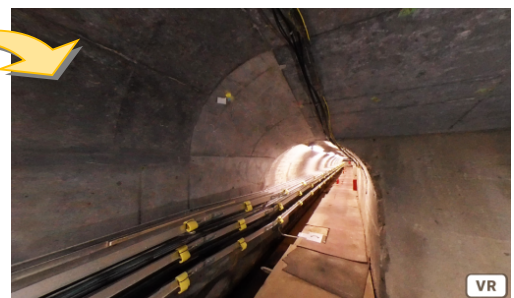
イルス感染症の影響により、イベントの中止・規模縮小をしており、さらに現地を見ていただく機会が少なくなっていた。また、従来の事業所webサイトにおいては、新桂沢ダム建設工事の進捗を公開するための俯瞰の写真は定期的に掲載していたが、ダムの施設について詳しく解説があるわけではなかった。

そこで事業所では、より広く一般の方にダムの工事現場を体感していただけるよう、令和3年10月に事業所webサイト内に「バーチャル現場見学」のページを開設した。これは、撮影した360度画像をPCやスマートフォンのwebブラウザ上で自由に回転させて閲覧、あるいはAR表示(スマートフォン・タブレット端末等)できるサービスの特設ページ内に埋め込んだものである。

見学可能箇所は表-2のように新桂沢ダム及び三笠ぼんべつダムの計14か所となっている。本事業のバーチャル現場見学はダム本体のみならず、実際に現場に来ていただくときにご案内する見学ポイントや、イベントでは都合により案内できてない箇所まで、ダムについて理解を深めていただけるようなポイントを網羅できるように構成している。

表-2 バーチャル現場見学での公開箇所

ダム	公開箇所
新桂沢ダム	管理棟
	天端(右岸、中央)
	取水塔 展望台
	放流設備 ダム直下
	監査廊(新旧堤体)
	プラムライン室
	巡視船(ダム湖・新旧堤体)
三笠ぼんべつダム	原石山(三笠層全景、近景)
	ダムサイト予定地 調査トンネル



PC用のブラウザではマウス操作で回転・移動させながら閲覧  
スマートフォン等では端末の回転・移動に追従させたAR表示が可能

図-3 事業所webサイト「バーチャル現場見学」 [https://www.hkd.mlit.go.jp/sp/ikushunbetu\\_damu/e1lg9c0000005pes.html](https://www.hkd.mlit.go.jp/sp/ikushunbetu_damu/e1lg9c0000005pes.html)

## (2) 資料の充実と体系の整理

事業所のwebサイトは、ダム建設事業にかかわる基礎資料を掲載していたが、雑然とした構成となっており利用されにくい面があった。このため、閲覧者が知りたい情報にアクセスしやすいようにwebサイトとしての体系を見直し、事業の法令根拠となる基本計画の本文や各種委員会資料、工事状況などを事業所のwebサイト内に掲載またはリンクするなど事業に関する資料を充実させた。今後は、三笠ぼんべつダムの工事の本格化など、事業の進捗状況を随時更新していくことで事業の透明性を確保したい。

## (3) 見学会・視察等のイベント開催情報の発信

事業所webサイトの「広報」ページでは、三笠市のイベント情報及びダムの工事現場等における視察や見学会、意見交換会等の開催状況、事業所にかかわる取組を発信することで事業の透明性を確保したい。

また、札幌開発建設部として運営しているTwitterにおいても、適時事業に関する情報を発信している。以前は新桂沢ダムの堤体かさ上げの様子を発信しており、今年度については前述のバーチャル現場見学の公開と後述の「見学会・意見交換会」の開催のご報告のみとなったが、今後はより手軽なweb上の情報発信のツールとして、活用のあり方を検討していきたい。

## (4) お問い合わせ用メールアドレスの開設

“対話型”の情報発信を目指すための新たな問合せツールとして、メールアドレスを開設し、事業所webサイトにおいて公開した。いただいたご意見については事業の参考にさせていただくほか、ご質問については別途掲載している「ご質問と回答」に掲載する。

## (5) webサイトのリニューアルの効果

事業所webサイトのリニューアルは令和3年8月27日に実施したが、これに際して同サイトの利用者の動向を検証するため、同サイト全体の閲覧件数(PV数)の変化を確認することとした。

図-4は令和3年4月から12月の事業所webサイトの総PV

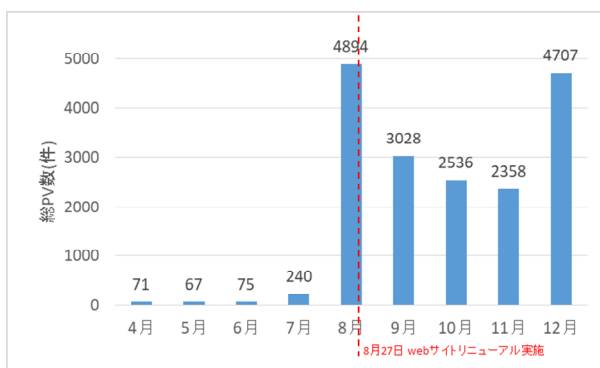


図-4 令和3年4月～12月の事業所webサイトPV数の推移

数(各ページの閲覧数の総計)の推移をグラフにあらわしたものである。これを見ると、リニューアル前に比べてリニューアル後はPV数が大幅に増加したことがわかる。

## 4. 「見学会・意見交換会」の開催

令和3年度の当事業の情報発信に関する取組として最大のものが、10月に開催した「見学会・意見交換会」である。本章ではこの見学会・意見交換会で目指した形と実施内容について述べる。

### (1) 企画と準備

内部で協議を行い、より多くの方に参加いただき、意見をうかがえるように今回の見学会・意見交換会の方針を決定した。

- ・開催は土曜日とする
- ・札幌発着のバス送迎を行う(途中乗降・現地集合も可)
- ・応募対象は広く一般の方とし、特に制限を設けない
- ・意見交換会は対話形式とする

また、当日に向けた準備として、説明の流れを事業の目的や効果について一般の方にとってわかりやすいようにすることを重視しつつ、普段見ることのできない箇所の見学や事業の特殊性等を紹介するなど、資料の作成や行程の検討などに時間をかけた。また、意見交換の場を参加者の方にとっても有意義な場としていただけるよう、説明内容などについて直前まで調整を重ねた。

### (2) 開催の告知(広報)

広報としては、初めての企画・開催となるためにいかに広い地域の方々に認知度を上げるかがカギとなったが、一方で準備期間の短さから周知期間を十分に確保できなかったことが課題となった。このため、今回はポスター等の掲示は行わずにインターネット上での広報及び報道発表が主となった。まず開催の約3週間ほど前に開催告知の報道発表及び開発局・事業所webサイトでの情報公開を行い、札幌開発建設部の公式Twitterでも告知を行うこととした。また、本事業に関係する市町村に対して、開催について事前周知し、各市町村のwebサイトにて開催情報を掲載いただいた。

### (3) 新型コロナウイルス感染症対策

今年度の企画にあたっては、新型コロナウイルス感染症への対策にも配慮して検討した。可能な限り人と人との距離をとる必要があったことからバスや会議室での席配置に配慮したほか、当日は検温・消毒・マスク着用の要請など基本的な感染対策を徹底した。また、企画・検討の時期が感染拡大の“第4波”と重なったため、緊急事態宣言等の外出自粛要請が開催当日まで継続された

場合の対応についても、中止等の基準をあらかじめ決めておくなど検討していたが、結果として外出自粛要請は9月末に解除となり、10月上旬の募集開始から見学会・意見交換会当日の開催まで進めることができた。

#### (4) 当日の様子

開催当日は晴天に恵まれ、道内の7市町から、小学生から70代以上の方まで計28名にご参加いただいた見学会・意見交換会は順調に経過した。現場見学では、新桂沢ダム及び三笠ぼんべつダム建設現場などといった各見学箇所ですら設けた自由時間では参加者から、現地にある設備についてや「ダム再生にあたって同軸嵩上げを選んだ理由は？」などといった多くのご質問をいただいた。

また、意見交換会は、先に事業所職員から若干の話題提供を行った後で質問を受け付けて対話する形としたが、参加者からは「ダムを造る場所はどのように決めているのか」「ダムの建設事業に時間がかかるのはなぜか」など、活発に質問をいただいた。

#### (5) 参加者からいただいたご意見

当日は意見交換会の終了後にアンケートのご回答いただくことができた。この中で、ほとんどの方に『見学会・意見交換会の内容に満足した』『参加を通じて事業への理解がとても深まった』と回答いただけたことから、今回の開催目的に対しても一定の成果があったと考えられる。



図-5 見学の様子(新桂沢ダム展望台)



図-6 意見交換会の様子

アンケートの自由記述欄においてご意見を伺ったところ、まず事業に関しては『説明頂いたように進めてほしい』とのコメントをいただいた一方で、『三笠ぼんべつダムは必要なのでしょうか。森林の保全で洪水対策はできないのでしょうか』というご意見もいただき、一般の方が持たれる疑問点を確認することができた。こうしたご意見については、情報発信のフィードバックとして、意見交換会の場で出た主な質問と併せて事業所webサイトの『ご質問と回答』ページへ追加することでwebサイトの充実を図った。

また、事業のPRに関して、『とても重要な事業なのは間違いないので、もっと内容や効果をPRした方が良い』『ダムというと発電と水道というイメージで、洪水対策について知らなかった。もっとアピールするべきでは』といったご意見もいただいた。今後の様々な場面での事業広報にあたり、ダムの目的と具体的な効果についての情報発信の強化の必要性を改めて再認識できた。

## 5. まとめ：今後の情報発信について

### (1) 令和3年度の実績と今後の対応

ここまで述べてきたように、幾春別川ダム建設事業所では今年度、情報発信の強化に取り組んできた。その成果は表-3に示したように、3章にて提示した課題及び4章にて設定した方向性に対してそれぞれ一定の成果を出すことができた。

令和3年度の成果をふまえた今後の対応としては、さらに多くの方からご意見をいただけるようにしていくことが挙げられる。令和3年度に実施した見学会・意見交換会への参加者数はまだ少なく、皆様のご意見やご質問、情報のニーズを広く把握することはできていないと考えられる。今後はご意見やご質問をより多くいただけるような機会を増やしながら、しっかりと事業及び情報発信に生かしていきたい。

また、見学会・意見交換会については、参加者より『もっと現地で時間をとれれば良かった』『定期的に実施するとよい、また参加したい』『周囲にも参加したかった人がいたので、回数や人数が増えるとよい』といったご意見もいただいている。前述のとおり、今回は感染症対策及び見学箇所・会場の都合から参加人数を制限せざるを得ず、また今回のような形式での開催が初めての試みだったことから、こうしたご意見もいただく結果となった。今後の開催を検討するにあたっては、こうしたご要望、あるいは今回の開催に興味をもっていただいたにもかかわらずご参加いただけなかった方々のご期待に少しでも応えられるように、会の内容、運営・応募方法など改善を図っていきたい。

表—3 令和3年度の情報発信に関する取組と成果

課題	令和3年度の対応の方向性	令和3年度の成果	今後の対応(案)
(1) 事業本来の目的・効果の理解度	<ul style="list-style-type: none"> <li>webサイト上の情報の充実・整理</li> <li>現場見学等において、事業の目的・効果を理解いただけるような説明の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報の充実後のPV数の増加から、一定の効果を確認できた。</li> <li>見学会・意見交換会において、事業に関する説明を実施。アンケート結果から事業に関する理解度の上昇効果が確認できた。</li> </ul>	
(2) 幅広い方々への発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>webサイトに新設する「バーチャル現場見学」で見学等に参加せずともダム建設現場を体感可能に</li> <li>従来の見学受け入れと別に「見学会・意見交換会」を事業所主体で実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現場を訪れずとも現場を体感できるバーチャル現場見学を公開。一定数の閲覧をいただいている。</li> <li>従来の特組みを継続しつつ新規の「見学会・意見交換会」を開催し、現場を知っていただく機会を増やした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実施回数等の検討</li> </ul>
(3) 一般の方からのご意見・ご質問と反映	<ul style="list-style-type: none"> <li>お問い合わせ用メールアドレスの開設</li> <li>「見学会・意見交換会」における参加者との直接の意見交換の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見学会・意見交換会において、一般の方の疑問・ご意見の一部を確認することができた。またその結果をwebサイトの掲載内容にフィードバックできた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同上（一般の方から意見をいただく機会をより増加させる）</li> </ul>
(4) 情報の体系的な整理・わかりやすさ	<ul style="list-style-type: none"> <li>webサイトの体系を整理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体系の整理を実施した</li> </ul>	

## (2) これからの情報発信の考え方

事業に関する情報発信が今後も継続的に求められる中で、今後さらに検討が必要なのは、『一般の方が欲しいと思っている情報とは何か』『それらを伝える媒体は何が適切か』という視点ではないだろうか。

### (a) 求められる情報とは？

一般の方々に事業について幅広く、かつ深く知ってもらうための事業主体に求められる情報発信とは、『取っ掛かりが掴みやすく、かつ詳細の情報を探しやすい』ような情報発信の体系を作り出すことではないだろうか。また、そういった中で一般の方から求められる情報・コンテンツとは何かを探するのは発信側として難しい部分であるが、上で述べた「意見交換会」やお問い合わせメール、あるいはPV数の分析などからヒントを得るほか、他の公共事業や一般の情報発信の例から良い先例を探したり、後述する媒体もうまく活用しながら一般から広く情報収集していくことが必要だろう。

### (b) 事業の広報の媒体

現在は、情報を発信する方法、また受ける・調べる方法ともに極めて多様化かつ低廉化している。その一方で、従来のマスメディアではなくインターネット上の記事やSNSの投稿などから情報を得る方が多い一般の方たちも次第に増えてきた。こうした方々にとっては『自分が欲しいジャンル、好きな発信者の情報以外には触れる機会がない』可能性も高く、今後そうした方たちが多数派となることも十分に考えられる。

こうした中で今後議論すべきは「現在全く関心がない人に、如何に最初の関心を持ってもらうか」という視点であり、例えば媒体をこれまで以上に増やしたり、親しみやすさを前面に押し出した情報発信に取り組むなどといった対応が考えられるのではないだろうか。

## 6. 終わりに

公共事業を行っている官公庁では、そのコスト意識から、広報に消極的になってしまうことが考えられる。しかし、令和3年度の事業所での取組については、コンテンツの企画や全方位画像の撮影、webサイトのプログラミングを職員自ら行うことで限られたコストの中での情報の充実に努めている。今後とも「必要な事業に必要な費用をかけて実施している」ことを適切にPRして皆様に事業への理解を深めていただくためには、より積極的な広報のためある程度手間をかけることも必要ではないだろうか。

今後も幾春別川ダム建設事業所では、徹底した事業監理の下にコスト削減に努めながら、早期のダムの効果の発現に向けて2つのダムの建設事業を進めてゆく所存であるが、その中での情報発信の取組についても、改善に向けた不断の検討と努力を続けていきたい。

**謝辞：**幾春別川総合開発事業の推進にあたり平時からご理解とご協力をいただき、見学会・意見交換会の開催に際しては情報の掲載などにご協力いただきました関係市町村のみなさま、また事業に参画いただいている各利水者並びに北海道の皆様、イベント開催にあたり現場の準備等ご尽力いただいた施工業者の皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

### 参考文献

- 1) 三笠ジオパーク 公式 web サイト  
<https://www.city.mikasa.hokkaido.jp/geopark/>
- 2) 熊谷 彰浩、齋藤 直之、安田 昌弘：ダムを活用した地域振興について—新桂沢ダムでの取組み—、第 62 回(2018 年度)北海道開発技術研究発表会発表論文